柏市広報

昭和33年9月15日発行　有線放送特集号　編集発行　柏市総務課　印刷所　浜田印刷所

県下に誇る最新設備
待望の有線放送電話開通

PR活動に一層の効果を

柏市議会議長　小川雄市

今回開通を見るに至りましたこの有線放送については、本市市制施行以来の懸案事項とされていたものでありまして、市民並びに関係各位の極めて深い御理解と御協力に基き、加入世帯千八百戸を有する大規模な放送施設として、ようやくこゝに実現を見た次才であります。有線放送電話は今日における地方自治体の広報活動に一大革命を齎し、その行政事務の能率化合理化に大なる影響を与え、更に地方産業の発展助長に貢献する処極めて大なるものがあります。これ等の見地から、本市においても市制施行当時よりその必要性を痛感いたし市議會、市理事者共に一体となり既設市町村の視察を行い本市の現況に最も適合した有線放送施設の研究を進めてこれが早期実現に鋭意努力を続けて参つた次才であります。その結果昨年九月定例市議會において設置を議決、続いて本年五月の急施議會において議決せられた工事契約に基き直ちに神田通信工業株式會社の手により着工され、爾来四ケ月を経た今日こゝにその竣工をみるに至つた次才であります。

工事の過程においては、関係市民各位並びに各農業協同組合に対しては種々御迷惑を煩わしたるにもかゝわらず極めて深い御理解と全面的な御協力を賜り更に終始本工事の早期実現に万全を期された放送準備委員會委員各位、又、着工より竣工まで万難を廃し直接工事に当られた神田通信工業株式會社の利益を度外視した、献身的な御尽力によりこゝにその竣工をみたものであり、この点関係各位に対し深甚なる感謝の意を表する次才であります。本市に施設せられたこの有線放送電話は最新式施設にして、構造、形式、美観等全て県下屈指のものであり、今後この施設の利用による本市の行政各般の滲透は勿論文化及び経済の発展は期して待つべきものがあると確信いたす次才であります。本施設を利用される加入者始め、関係各位にはその設置された趣旨を充分御了察の上御愛用を賜り、本事業発展のため、更には本市発展のため今後とも絶大なる御支援、御協力を賜りたく懇願申し上げる次才であります。

終りに臨み重ねて市長の皆様始め関係各位の御協力に感謝し、且つ工事担当者の連日の労苦をねぎらい、更に今後直接本事業運営の衝に当られる放送運営委員會の活動に期待いたし一言もつて開通に対する御祝の挨拶といたします。

昭和三十三年九月十一日

経過報告

柏市有線放送開通準備委員会　委員長　藤井惣司

茲に当市多年の待望でありました有線放送の開通いたしました経過の概要は本年二月十七日市會議員、農業共同組合長、町會長代表、学識経験者をもつて準備委員會が設置され、私が委員長に選らばれ先進地の視察等を参考とし、当市の実情に副うより各般の設備の設計をいたしました。その内容を申上げますと市役所内に本部を置き田中・富勢・土の三地区に中継所を置き、本部より各中継所を通じ全市に一斉放送ができ、又中継所単位においても可能で、どの地区の加入者とも通話ができるようになつております。又移動アンプを用いて中継放送が全市内にできる設備をもつております。なお、放送に当つては録音によるものも出来る最新の設備がしてあります。加入者の数は千八百台。工事に当つてはメーカーの工場視察の結果、神田通信、日立、東芝日本電気、沖電気、の五社をもつて競争入札により工事をすることにし、四月二十八日、五社をもつて競争入札の結果、最高入札額二千四百二十八万七千円、最低入札額一千三百七十万円で、最低額の入札せられた神田通信工業株式會社に落札した。神田通信が最近工事をせられた神奈川県中津農協の工事状況を視察、一応差支なきものとして委員會において内定し、五月九日、市議會の議決を得て、全日神田通信と正式に工事契約を締結し、翌十日より田中地区より工事に着手、八月一日試験開通ができるようになり、引続き土地区、富勢地区、柏地区と順次きに開通ができました。工事に当つては建柱地や立木の伐採等幾多の困難な事情がありましたが、町會長はじめ市民各位の協力と工事請負業者の密接な協力により、こゝに目出度開通出来ましたことを感謝申上げ、経過の概要を御報告申上げます。

新市一本化に大きな力

柏市長　鈴木悦三

稔の秋を迎え豊穣を寿ぐ声々の津々浦々に満る秋九月此処に亦農村文化に画期的向上をさえもたらすであろう有線電話開通なり、千葉県知事柴田等氏を始め来賓多数の御臨席を辱し、関係皆様四百人の御参加の下に開通式典を開催することを得ますことは、私の最も喜びとする処であります。

想うに本事業は合併市制施行成り、地域の拡大を見たる時その必要を痛感し爾来研究計画を進め、本年二月漸くその事業化を決定し、議會、農協、地域代表、学識経験者を以てする委員會を構成し、事業を進め一般市民の協力を求めたるに千八百に及ぶ多数の応募者を得、六月神田通信工業株式會社と工事契約を締結し、工事を進めて参つたのであります。此の間当初においては山積する幾多の困難或はその前途に対する憂慮さえする時もあつたのでありますが、逐次工事は軌道に乗り特に神田通信工業社長の努力と義侠的精神と委員各位、別して正副委員長の努力は幾多の障碍をを除去し若干工期の延長見たのでありますが、此々に目出度く完成を見た次才であります。たおこの間、本事業の必要性を国並に県の認むる処となり、新市町村建設補助金四百五十万円の交付の決定を見、本事業財政的負担の軽減を見たことは最も喜ぶべき事実であり、関係御当局の協力に感謝申し上げる次才であります。此の完成を見て本市においては、去る一月電報電話局完成自動式電話の開通を見、更に近六百本に及ぶ電話の増設工事着手の予定でありますので、通信連絡施設においてはその完備を見て一新時代を画するに至りましたことは真に慶賀に不堪る処であります。

即ちこの完成により遠隔の農村部との連絡も極めて近代的に迅速に行はるゝに至り、その経済活動を活潑化し、防犯消防力増強に寄与すること極めて大にして、亦広報活動を活発化し、更に新市一本化に力する処極めて大なるものあり、農村が科学の恩恵を無限に受くるに至り農村文化の向上のため最も慶賀に不堪処であります。顧れば本市は過る昭和二十九年九月幾多の山積する困難を排除して合併の完成を見、市制施行を見たのであります。

此の間新市経営の困難はその例にもれず、限り無い困難を市民の理解協力と関係者の努力と特に人の和を求めて之を排除し、建設を進めて参つたのであります。

即ち、合併建設計画における昭和三十三年までの事業量は三億八百万円でありますが、此の額はすでに昭和三十二年において完成し、三十三年度事業は計画を上回る一億円とならうとしてゐることは、此の事実を証明する明々白々たる事業であると思うのであります。なおこの際一言申し添え度い事は、〇〇報告と称しあたかも放埒極まる財政運営をなし、あるかの如き言辞をろうする者あるやに聞くのでありますが、此の言に対し私は市政に対する市民の信頼感を得ることは最も本市建設上必要と思料しますので敢えて左の数字を申上げて、賢明なる市民諸君の御判断願いたいのであります。

	（全国平均）	（本市）	（差）
消費経費的	二、四八〇円	二、一七八円	三〇二円
食糧費	六〇円	五九円	一円
交際費	三九円	一九円	二〇円
投資的経費	一、三八〇円	一、七三〇円	三五〇円

此の統計によつて予算を最も効率的に使用するため、如何に努力しているかを御判断いただき、更に合併以来、学校建築延二、六〇〇坪、道路の新設改良二二、〇〇〇米、舗装二、七〇〇米等々の事実を見るならば、その効率が如何に発揮されているかを御承知いたゞき市政に対する御協力をいたゞけることを信じて疑いません。

想うに本市は、建設才一次計画を進めて各地区の行政水準の均等化をなし、近々才二次計画を樹立して、更に建設と市民福祉の増進を計る可き秋を迎えたのであります。而も此の秋、国は首都圏整備法に基き本市附近を市街地開発地域に指定の準備として調査地区に選定し、近く調査に着手する段階に立ち至つたのであることは、極めて喜ぶべき事実であり、特に発展のため千載一遇の好機に邁進したと申しても過言ではありません。此の好機を捕捉し、本市は或る時は勇敢に事業を進め、或る時は最も細心の注意と研究を重ねて計画を立案し、確実なる発展を期することこそ今の世代に生を受くる者の責務を考えるのであります。

即ち地方自治体の建設経営は、けだしハッタリ或は大言壮語を以つては進むべくもありません。営々として経営し、孜孜（しし）として努力をし、一つ一つの積み重ねでなければならないのであります。

吾人は「ローマは一日にして成らず」の金言を残しています。柏の建設も各方面の御指導御援助と市民の郷土愛に基く諧和一致と誠実一路の努力とたゆまざる日日の漸進的努力こそ、その堅実なる建設への道であることを信じ、此の天の秋、地の利を人の和を以つて完成することを希望して、関係者に重ねて感謝し、本市建設に関する所懐の一端を申し述べて式辞とします。

昭和三十三年九月十一日

盛会をきわめた有線放送電話開通式　（市長式辞の際に写す）

本日芽出度く御当市有線放送電話施設の開通式を挙行するに当り、直接工事を担当致しました会社と致しまして、一言御挨拶の辞を述べさせて頂きますことは、誠に感概無量のものがあり欣快に堪えません。

これ一重に市長殿をはじめ委員の皆様の御苦心はもとより、市執行部の各位並びに市民の皆様の協力と献身の賜でありまして、私共として深く感謝致しております。

省りみまするに御市当局が市の発展のために有線放送施設を慎重に御計画せられ、多くの同業各社の中から特に神田通信工業株式會社を選ばれ、請負をさせられたことに対し、こゝに改めて御礼申上げる次第であります。

私共と致しましても、この市の御厚志御期待に報ゆるべく、會社の総力を挙げ、多大なる犠牲を払つて一日も早く完璧な施設を完成する様努力致して参つたのであります。

此の間、慮はざる事態にも遭遇し、一時は前途に大きな不安を感じたこともあつたのでありますが、関係各位の絶えざる御鞭撻と、大いなる御支援によりまして、漸く本日を迎え得ましたことを心から喜こぶものであります。

神田通信工業株式会社
代表取締役　渡辺勝三郎

御当市は今や日に日に発展の一途を辿り、人口の増加も目覚ましいものがあり、まことに御同慶に堪えません。

これに平行して通信施設の充足周知広報や、相互の通話連絡の要望も極めて大きなものがあり、有線放送の実用価値は測り知れないものがあります。

その施設の内容におきましては日本電信電話公社の規格に準じ、充分なる注意と検査を行つて施行致しました。私共の機械装置並びに工事は必ずや皆様に充分御満足頂けるものと信じております。

この施設が如何に運営されるか市の文化的経済的発展向上にも極めて大きな作用がありますので市の一致の飛躍のため、又意義ある本事業の妙を大いに発揮して頂き度いと念願いたします。なお現状に於ては相当数の追加加入の要求も必至であり、現在の有線放送施設のより完璧を期するためにも、市長の皆様が一戸でも多く加入者を増加することは、施設の利用価値を高めることにもなり、技術水準の維持、規格の統一その他を考へ合せて、私共は今後の工事を大いに期待致しております。

以上簡単ではありますが、開通の式典に当り御挨拶にかへさせて頂きます

有線放送電話の使い方

テレホンスピーカー（電話機）の取扱いについて

(1)送受話機（話をするとき耳と口にあてるところ）は常に定められたところにかけておいて下さい。もしこれをはずして置きますと、よそから電話があつたり緊急のときの放送をお知らせする事が出来ません。

(2)放送中音が大きかつたり小さかつたりするときはボリューム（つまみ）を廻すと音の調節が出来ます。放送音を全然聞えなくすると緊急放送や呼出が出来ませんので常に適当の音量にしておいて下さい。

(3)送受話機の下のボタンを呼出しの時や話中にガチヤガチヤやると故障し他人に非常に迷惑を掛けるのでやめて下さい。

(4)電話機の位置を変える時は係に申出て下さい。

(5)お子さん等にいたずらをさせないように大切にして下さい。

2.　**電話をかけるとき**

(1)定められた時間以外の通話は受付いたしませんので、通話時間にかけて下さい。緊急の場合（火災、盗難、急病人）は別であります。

(2)電話をかけるときは、相手の番号を調べてから送受話機を静かにはずすと交換手が応答いたしますから相手の番号（田中の何番又は柏の何番）を伝えて下さい。交換手が「どうぞ」と相手の出たことを伝えてからお話し下さい。

(3)同一回線中で話中だつたり（このときは送受話機をはずし耳にあてると話がきこえますからそのときは一度かけてしばらくしてから又かけて下さい）又は相手を交換手が呼んでも出なかつたりするときは、その事を交換手が伝えますからしばらくしてから又かけて下さい。

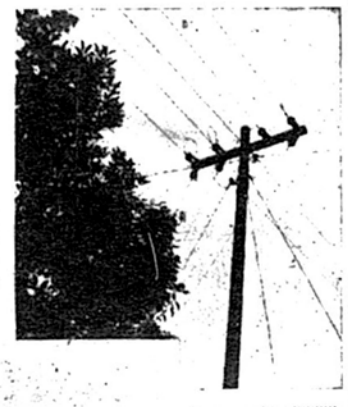
(4)話がすんだら送受話機を静かに必ず元のようにかけて下さい。

3.　**電話がかかつてきたとき**

(1)何番何番と交換手がスピーカーで呼びますから、その番号のお宅の方は速かに静かに送受話機をはずしてお話し下さい。

(2)お話が終つたら又送受話機を静かに元のところにおかけ下さい。

(3)呼出された以外の方は絶対に送受話機をはずさないで下さい。話中以外のものがはずすと感度が悪くなります。



（右）船戸木戸から山高野へとのびる有線放送の電線

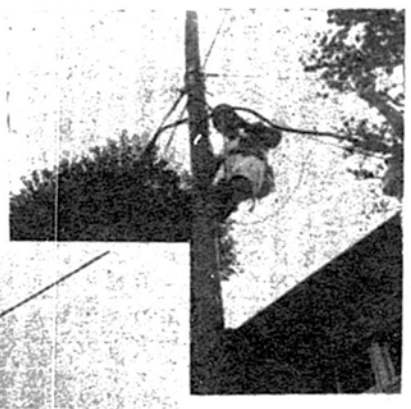
（左）富勢オ四保育園の壁掛け電話機（通話中の保母さん）

（左）富勢中継所の内部と（上）中継所から各戸へ伸びる中継線の束

富勢中継所は富勢支所の二階にあり高い所で加入者222台の通話を扱つています。大変便利なものだと利用者が多いので交換手も喜んでいる。

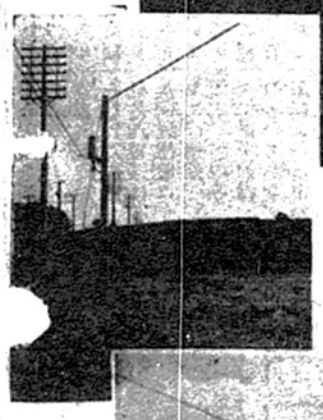
（下）柏中継所
有線放送の本部で市役所広報係内にある。男の手を借りるほどの忙しさです。

田中中継所は田中支所内にある。六三八台の加入者の通話を扱つており、一日に一戸平均一、五通話として九〇〇通話をさばいています。



（右）田中、富勢、土の中継線はまとまつて市役所の本部へ

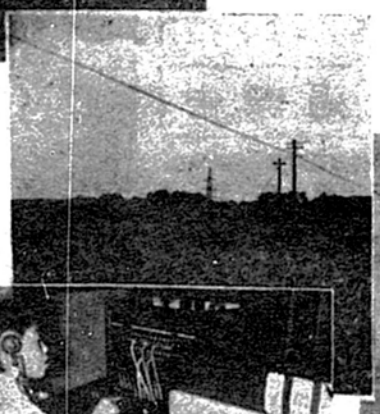
（上）国道をこえ、田圃をこえ、富勢地区へとのびる電線（高野台にて）



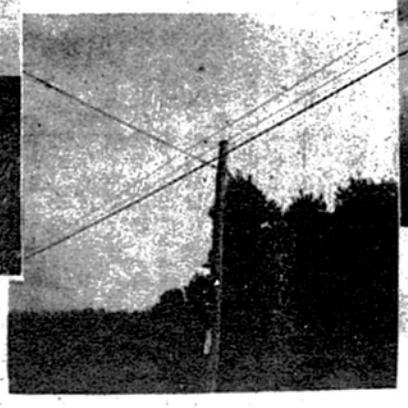
（左）市役所からでる中継線は、常盤線の地下をとおつて田中富勢へ

柏中継所は本部である。田中、富勢土の中継線を取扱ているので交換手は汗だくの大奮斗。今のところ1日に2000通もの通話をさばいている、加入者 581台。

（右）田中地区、鏑木喜平氏宅における通話状況



（右）田をこえ、丘をこえて中継線は土中継所へ



（上）
中継所からでる放送線は四方八方へと分れて伸びてゆく。

（上）十字に交叉して加入世帯にのびてゆく。
（左）土中継所の内部
馴れない手つきでハイハイ……

土中継所は土支所の内部にある。315台加入者の通話を取扱っており、市街地から遠く離れた農村の方々に大変喜ばれ、利用者も非常に多いようだ。

（左）
市街地周辺部に伸びる電話線（緑ケ丘町会）